令和８年（2026 年）11 月 12 日

保護者各位

札幌市立北九条小学校
校長　　佐々木　修治

全国学力・学習状況調査の結果分析及び説明について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、令和８年４月 23 日（木）に小学校６年生と中学校３年生を対象に行われました全国学力・学習状況調査（質問紙調査は４月 30 日実施）について、全国の調査結果と北海道の調査結果の概要を基にして、本校の調査結果について分析をいたしましたのでお知らせいたします。

なお、本調査結果は、学力の中の特定の一部分に基づくものであり、全ての学力を網羅し評定を示すものではありません。また、本校で対象となりました６年生の保護者の皆様には、既に個人票を配付しております。

１．結果分析について

（１）分析の方法について

①国語、算数、理科について、それぞれ領域ごとに自校の平均正答率を全国平均と比較する。

②比較に当たっては、全国平均との差を下記の「比較値」を用いて表記する。

「比較値」
- ＋3.1 ポイント以上　⇒　『上回っている』
- ＋3.0 ポイントの範囲内　⇒　『ほぼ同程度であるが、やや上回っている』
- 全国平均と同じ　⇒　『ほぼ同程度である』
- －3.0 ポイントの範囲内　⇒　『ほぼ同程度であるが、やや下回っている』
- －3.1 ポイント以下　⇒　『下回っている』

③その他
- 特徴的な傾向について分析する。

（２）「課題」及び「改善の方向」の作成

「課題」は小学校６年生のみの課題としてではなく、学校全体の課題として捉え、今後、全学年を通じて改善していくものとする。「改善の方向」は、課題に対する具体的な解決策とする。

２．児童生徒に対する教科に関する調査結果から

【小学校国語】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のいずれも、全国平均を上回っている。特に、事例を挙げて話の構成を考えることや、考えたことを自分の経験と結び付けてまとめることに成果が見られる。 ・「書くこと」については、全国平均を上回っているが、必要な情報を引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率が、他の問題と比べると低い。 ・「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均を上回っているが、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える問題に、理解を深める余地が見られる。	●自分の考えを伝えるために必要な情報を選んで引用し、考えと引用した内容とのつながりが分かるように書き表すことができること。 ●考えと、それを支える理由や事例との関係を捉え、筋道の通った文章の構成を考えることができること。	○資料から自分の考えを支える言葉や文を選び、引用して文章を書く活動を充実させる。引用した部分と自分の考えを区別し、読み手に伝わる表現になっているかを確かめ合う学習を進める。 ○文章の中の考え・理由・事例を色分けしたり、図に整理したりする活動を取り入れる。それぞれのつながりを確かめ、文章の構成や展開を考えて書く力を育てる。

【小学校算数】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
○「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域で、全国平均を上回っている。特に、小数の仕組みを理解して条件に合う数をつくることや、必要な情報を基に時間を求めることに成果が見られる。 ○「変化と関係」については、全国平均を上回っているが、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解し、混み具合を判断する問題の正答率が、他の問題と比べると低い。 ○「データの活用」については、全国平均を上回っているが、二次元の表から複数の条件に合う数を読み取る問題の正答率が、他の問題と比べると低い。	●単位量当たりの大きさを求める式や答えが何を表しているかを理解し、それを基に混み具合などを判断することができること。 ●二次元の表の行と列が表す内容を理解し、複数の条件を整理しながら、必要な数を正しく読み取ることができること。	○人数と面積などの身近な場面を取り上げ、何をそろえて比べるのかを明確にする学習を充実させる。図や表と式を結び付け、式や答えの意味、判断した理由を言葉で説明する活動を取り入れる。 ○アンケート結果などを二次元の表に整理し、条件に合う数を読み取る活動を充実させる。行や列の見出しに着目し、複数の条件が重なる部分や、合計する範囲を確かめながら考える力を育てる。

３．児童生徒に対する質問紙調査に関する調査結果から

成果が表れている点	今回の調査における課題	改善の方向
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、８割以上の子どもが肯定的な回答をしている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いには、９割以上が肯定的な回答をしており、多くの子どもが学校生活の楽しさや、教師に認められていることを感じている。 ○平日の学校の授業時間以外に、１日１時間以上勉強すると回答した子どもの割合が、全国や北海道を上回っている。学校外でも学習時間を確保している子どもが多いことがうかがえる。 ○「国語の勉強は好きですか」の問いに、肯定的な回答をした子どもの割合が、全国や北海道を上回っており、国語の学習に親しみをもって取り組む姿が見られる。	●「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに、肯定的な回答をした子どもの割合が、全国や北海道を下回っている。自分の興味や関心、よさに気付き、将来への希望や目標をもつことができるようにする働きかけが必要である。 ●「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の問いに、肯定的な回答をした子どもの割合が、全国や北海道を下回っている。課題に応じて学び方を選び、工夫しながら主体的に学習を進める力を育てることが必要である。 ●授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできると回答した子どもの割合が、全国や北海道を下回っている。学習内容と生活とのつながりを実感できるようにすることが必要である。	○様々な職業や生き方に触れる学習や、地域の人との交流を通して、将来への関心を広げる。また、自分のよさや得意なことを振り返り、興味や関心に合った身近な目標を立てて取り組むことで、自分の成長を実感できる活動を充実させる。 ○本や資料で調べる、ICT 機器を活用する、人に尋ねるなど、様々な学び方を経験する機会を設ける。その中から課題に合った方法を自分で選び、うまくいかないときには方法を見直す活動や、学び方の工夫を友達と伝え合う活動を通して、自ら学習を進める力を育てる。 ○学習したことを身近な生活の場面で使ったり、他の教科の学習と結び付けたりする活動を取り入れる。振り返りでは、何が分かったかに加え、どのような場面で生かせるかを考える機会を設ける。